１．安城市都市計画マスタープランの見直しについて

（１）安城市都市計画マスタープラン見直しに至る経緯

安城市都市計画マスタープラン（以下、「都市マス」という。）は、策定から６年が経過しております。昨年度、安城市都市計画審議会（以下、「都計審」という。）で都市マスの中間評価を実施し、「上位計画の変更」、「社会情勢の著しい変化」、そして「本市における成長の前倒し」が判明しました。このことから、本市は「第三次安城市都市計画マスタープラン（以下、「次期都市マス」という。）」策定を前倒して実施することとしています。

都市計画マスタープランは、「将来見通しを踏まえ、先を見越して、中長期的な視点に立って都市の将来像を明確にし、その実現に向けての大きな道筋を明らかにしていくこと」が求められている。

都市マス策定から**５年経過**し、都市づくりをとりまく環境が変化。

１）上位計画の変更
- 平成28年度に安城市第8次総合計画が策定。
- 西三河都市計画区域マスタープランの改定検討。

２）社会情勢の著しい変化
- 人口減少社会到来の確定
- リニア中央新幹線の開業
- 都市再生特別措置法改正等によるコンパクトシティへの強力な推進

３）中間評価結果　…順調に進捗・達成しているが、目標達成が前倒しされる可能性が高い。

環境変化に早急に対応し、安城市をより成長させるため、第三次安城市都市計画マスタープランを前倒し策定

（２）都市計画マスタープランの目的・役割

次期都市マスの目的は、第８次安城市総合計画で定める都市の将来像「幸せつながる健幸都市　安城」を実現させることです。そして次期都市マスの役割は、時代潮流等を踏まえ、都市の将来像を「都市づくり」において実現することです。

STEP1　都市計画マスタープランの目的

都市の将来像「幸せつながる健幸都市　安城」の実現。

STEP２　目的を果たすために求められる、都市計画マスタープランの役割

都市の将来像を、「都市づくり」において実現。

…　…　…　…　…

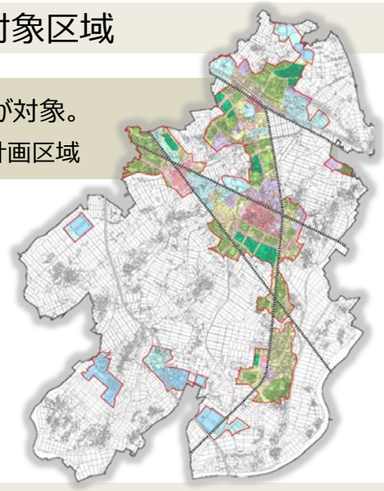
時代潮流や地域の実情などを考慮しながら役割を整理。

（３）都市計画マスタープランで定めること

次期都市マスで定めることとして、「対象区域」、「目標年次」、「構成」を整理します。

Ａ．対象区域

市全域が対象。
※都市計画区域



Ｂ．目標年次

概ね20年後の都市の姿を展望し、目標年次は10年後（平成40年）

Ｃ．構成

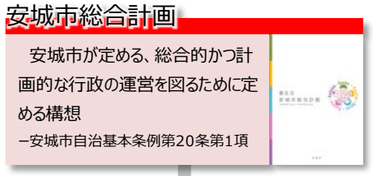
全体構想、地域別構想を中心に構成。

- 安城市都市計画マスタープラン
  - 見直しの経緯
  - 都市計画マスタープランの目的と役割
  - 都市計画マスタープランの概要
- 全体構想
  - 安城市の都市計画の主要課題
  - 将来都市像と目標
  - 分野別のまちづくりの方針
- 地域別構想
  - ＪＲ安城、三河安城、北部・新安城、桜井、安城南西部
- 都市計画マスタープランの運用
  - 都市計画マスタープランのＰＤＣＡ等

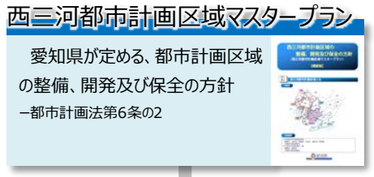
（４）都市計画マスタープランの位置づけ

次期都市マスは、上位計画である「安城市総合計画」及び「西三河都市計画区域マスタープラン」に即し、整合が図られたものとして策定します。

安城市総合計画
安城市が定める、総合的かつ計画的な行政の運営を図るために定める構想
－安城市自治基本条例第20条第1項



西三河都市計画区域マスタープラン
愛知県が定める、都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
－都市計画法第6条の2



即す

関連計画

連携

安城市都市計画マスタープラン
安城市が定める、市町村の都市計画に関する基本的な方針、住宅及び都市機能の立地の適正化を図るための計画
－都市計画法第18条の2、都市再生特別措置法 第81条

- 都市計画の決定・実施
- 都市計画によるまちづくり

協創

市民

２．都市計画の主要課題と目標骨子の例示

（１）都市計画をとりまく実態調査 “安城市”を知る

安城市都市計画マスタープランの見直しに当たり、まず“安城市を知る”ため、本市における都市計画を取りまく実態を調査いたします。実態調査にあたっては、以下に示す 12 項目（歴史的特性、人口・世帯動向、将来人口の見通し、産業構造、市街地の形成過程、土地利用、市街地整備、生活利便施設の状況、都市施設の整備状況、市民流動特性、防災、財政状況）について調査を行いました。下表では各項目における調査結果について、本市の「強み」と「弱み」の 2 つの視点で分類しました。分類した結果は以下に示す通りであり、本実態調査の整理については、以後整理します時代潮流からみた「都市づくりの視点」に従い再整理していくこととします。

調査項目		伸ばすべき強み	克服すべき弱み
①歴史的特性		大正から昭和初期にかけて「日本デンマーク」と呼ばれる農業先進地として発展 近年、自動車産業を中心とした工場立地や住宅開発などにより、農工商のバランスがとれた複合都市として発展	
②人口・世帯動向		人口・世帯数は増加で推移 年少人口はこれまで横ばいに推移 高齢化率は上昇しているものの、県平均、近隣市を下回る	世帯人員が年々減少 生産年齢人口は減少 高齢化率が上昇
③将来人口の見通し		人口はゆるやかな増加が継続する見込み 年少人口は、今後も横ばいで推移する見込み	
④産業構造	ⅰ）製造業の動向	製造品出荷額等は好調な自動車産業を反映し増加傾向、西三河第1位、県内第4位	
	ⅱ）小売業の動向	小売販売額、従業者数は増加傾向、周辺都市で最も高い 小売吸引力は1以上を維持、他市から買い物客が流入	事業所数が減少し、小売店舗の大型化が進み、身近な中小規模の小売店舗が減少
	ⅲ）卸売業の動向	周辺都市と比較すると、事業所数、販売額、従業者数とも高い水準	販売額、従業者ともに長期的には増加しているものの、リーマンショック以降減少
	ⅳ）観光の動向	観光入込客数は近年増加	観光施設の入込客数は周辺都市と同水準
⑤市街地の形成過程	ⅰ）市街化区域と市街化調整区域	市街化区域への人口集積が進む、高密度な市街地が主要な駅周辺等に分布	既成市街地では人口が減少
	ⅱ）DID（人口集中地区）	工業専用地域を除く市街化区域のほぼ全域がDID地区	
⑥土地利用	ⅰ）用途地域構成と土地利用現況	用途地域の構成どおりの土地利用、用途の純化が進む	
	ⅱ）土地利用の高度化現況	駅周辺の商業地域内で土地の高度利用が図られつつある	
	ⅲ）住居系市街地の用途地域構成と土地利用現況	用途の純化、低未利用地の活用が進む	
	ⅳ）工業系市街地の用途地域構成と土地利用現況		準工業地域では住宅地及び商業地の土地利用が増進、住商工が混在
	ⅴ）商業系市街地の用途地域構成と土地利用現況	容積率は主要駅周辺で高い	容積充足率はほとんどの地区で5割以下
	ⅵ）土地利用構想と土地利用現況		用途地域と土地利用構想の不整合は全体の約1割、その多くが住居系土地利用構想の地区
	ⅶ）市街化区域内の都市的低未利用地の現状	近年、都市的低未利用地が半減	都市的低未利用地の7割が住居系用途地域内に存在 市全域で空き家は増加傾向
	ⅷ）農地の現状	大規模既存集落周辺に一団の農振農用地が広がる	近年、大規模既存集落外縁部における開発の進行により、原風景の喪失が懸念
⑦市街地整備	ⅰ）土地区画整理事業の実施状況	市街化区域の約半分で土地区画整理事業が実施され、都市基盤が整備済み	
	ⅱ）地区計画の指定状況	住居系、工業系の地区計画を定め、良好な住環境・業務環境を維持	
	ⅲ）市民参加のまちづくり状況	まちづくり憲章及びまちづくり指導要綱を定めているほか、事前復興まちづくりを実施	
	ⅳ）狭隘道路の分布状況		狭隘道路が残る未整備市街地が存在
	ⅴ）公共用地率	市平均は、都市再生区画整理事業の要件を大きく上回る	
	ⅵ）市街化調整区域における開発動向		開発許可件数及び面積は年々増加
	ⅶ）大規模既存集落の現況		大規模既存集落外縁部で人口・世帯数が増加 大規模既存集落内では人口・世帯数が減少、高齢化が進行

（つづき）

調査項目		伸ばすべき強み	克服すべき弱み
⑧生活利便施設の状況	ｉ）生活利便施設の定義	-	-
	ii）生活利便施設の立地状況	市街化区域内では歩いて暮らせる生活エリア内に施設が立地 市街化調整区域内でも公共交通により生活利便サービスを享受できる	市街化調整区域内で交通施設、交流施設が不足
⑨都市施設の整備状況	ｉ）広域交通体系	新幹線で名古屋から10分圏、リニア開通により東京から60分圏内	国道23号、県道47号では渋滞が発生、将来に渡っても交通混雑が予想
	ii）都市計画道路の整備状況	県下で高い整備水準、概成済を含めた整備率が約８割	市街地の外郭を形成する多車線道路ネットワークが未形成
	iii）駅前広場の整備状況		JR安城駅北口の一部、名鉄北安城駅の一部が未整備
	iv）自動車駐車場などの整備状況	レンタサイクルポートを11ポート設置し、運用中 自転車ネットワークの整備路線の約1割が整備済み	
	v）公園緑地の整備状況	第2次都市マス改定時から公園整備が進行	都市計画区域人口一人当たりの整備水準が全国平均、県平均を下回る
	vi）下水道の整備状況	対都市計画決定面積約9割の整備率	
⑩市民流動特性	ｉ）目的手段別の移動状況		自動車が増加、自転車及び徒歩は減少 広域的交通需要に対し、広域的道路網が発達していない
	ii）通勤・通学の状況	通勤・通学者の約半数が市内で通勤・通学	
	iii）鉄道の状況	４路線により鉄道網が形成（鉄道網を軸とした都市構造） 鉄道利用者数は増加傾向 名鉄西尾線の鉄道高架化事業が進行	
	iv）鉄道駅端末交通手段	徒歩、自転車の割合が多く、自転車利用は名鉄南安城駅を除き、県平均を上回る	都市拠点、広域拠点で自動車利用が増加
	v）バスの状況	あんくるバスが11路線で運行、利用者数は増加傾向	
⑪防災	ｉ）大規模地震の被害想定		南海トラフ地震による人的被害や建物被害が予測
	ii）緊急輸送路、避難路、広域避難場所の指定状況	緊急輸送道路、くしの歯ルートを予め指定	
	iii）地震ハザードマップ、災害危険度評価		駅周辺に災害危険度の高い地区が分布
	iv）洪水ハザードマップ		洪水による浸水が市北部や市南部・市南東部を中心に想定
	v）老朽建物の分布状況		駅周辺の市街地に老朽建物が多く分布
⑫財政状況	ｉ）財政力指数等	財政力指数は1.0以上で推移 経常収支比率は総務省で望ましいとする75%前後で推移	
	ii）歳入、歳出状況	一般財源は近年増加傾向	高齢化の進展による扶助費の増加が予測、施設の老朽化対策や更新費用に十分な費用がかけられなくなる
	iii）公共施設維持更新費等		今後必要となる更新等費用、1年当たりの整備費を試算すると、約19億円/年が不足

（２）時代潮流からみた都市づくりの方向性　都市づくりの“これまで”と“これから”の流れを知る

「国土のグランドデザイン 2050」における今後の国土づくりの基本的な考え方（12 の基本戦略）をもとに、「都市再生基本方針」における都市再生の取組みに関する基本的な方針（13 の基本的方針）を踏まえ、時代潮流からみた都市づくりの方向性として、「集約型都市構造への転換」、「既存社会資本ストックの最大活用と適正管理」などの以下９つの方向性を整理しました。また、前回の都市マス策定時の時代潮流の変化としては、「インフラ施設の老朽化の進行」、「社会保障費の増大等により一層厳しさを増す行財政運営」などの経営、「生産年齢人口の減少による労働力不足に伴う経済成長の鈍化」などの活力創出、「リニア中央新幹線の開業による大交流圏の誕生」などの新たな脅威と機会が挙げられます。

国土のグランドデザイン 2050 国土を巡る大きな状況の変化や危機感を共有しつつ 2050 年を見据えた国土づくりの理念や考え方 基本戦略（順不同）	都市再生基本方針 我が国の活力の源泉である都市について、都市再生の取組みの共通指針となるもの 施策の基本的方針（順不同）	時代潮流からみた 都市づくりの方向性	経済社会情勢の変化＝時代潮流 対応関係の整理 ・①～⑧は現行計画策定時の情勢変化 ・－は現行計画策定後の変化
国土の細胞としての「小さな拠点」と、高次地方都市連合等の構築 コンパクト＋ネットワークにより新たな活力の集積を図り、それらが重層的に重なる国土の形成	都市のコンパクト化の推進等 ・「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現 質の高い生活を確保するための諸機能の整備 ・生活を支える諸機能の適切な配置 ・中心市街地の活性化や街なか居住の促進等	**1．集約型都市構造への転換　-機能集積の高い都市づくり-** ○市街地人口密度の維持とあわせ適正な都市機能の配置を図るとともに、自動車に過度に依存せず誰もが公共交通をはじめ多様な交通手段を選択できる便利な生活を将来にわたって維持できる都市構造への転換を図ることが重要	②人口・世帯構造の変化と少子高齢化の進展 ⑥中心市街地の衰退 ⑦集約型都市構造への転換の必要性
インフラを賢く使う 既存ストックの最大限の活用、様々な人・モノ・情報の流れを活発化する「対流基盤」としてのインフラの高度化	質の高い生活を確保するための諸機能の整備 ・既存ストックの有効活用	**2．既存社会資本ストックの最大活用と適正管理** **-都市運営コスト削減の都市づくり-** ○既存ストックの適切な維持管理、最大限の活用を図りながら、健全な都市経営の観点を踏まえつつ、都市運営コストの削減に寄与する都市構造を形成していくことが重要	―インフラ施設の老朽化の進行 ―生産年齢人口の減少による労働力不足に伴う経済成長の鈍化
民間活力や技術革新を取り込む社会 民間の活力を最大限に活用したイノベーションにあふれる活力ある国土づくり 国土・地域の担い手づくり 人口減少下でも持続可能な地域社会の実現のため、国土・地域づくりの担い手の確保	関係者との連携 ・地域において様々な分野で活動するＮＰＯ等との積極的な連携 ・都市再生推進法人等を活用したエリアマネジメント 安定的な民間都市開発推進のためのファイナンス環境の整備等 ・民間都市開発の持続的推進	**3．公民連携、民間活力の活用　-市民参加の都市づくり-** ○地方公共団体との連携に加え PFI、PPP 等の手法を活用した社会資本ストックの整備、維持管理等に関する民間事業者との連携により、その知恵と資金を活用するこが重要 ○地域において様々な分野で活動する NPO 等とも積極的に連携するなどのきめ細かな施策の展開を図るため、都市再生推進法人等を活用してエリアマネジメントに取り組むことなどが重要	④ライフスタイルの変化 ⑤公民連携や市民連携、市民主体のまちづくりの取り組み
攻めのコンパクト・新産業連合・価値創造の場づくり 人・モノ・情報が活発に行き交う中で新たな価値の創造・イノベーション	産業の競争力を向上させる環境整備 ・都市の産業を支える機能を高めるための総合的な施策の推進 情報通信技術の利活用の促進等による都市機能の高度化 立地企業の生産コストの低減が実現するような情報通信技術に関するインフラの整備	**4．産業競争力の強化、産業立地等民間投資の誘発** **-力強く発展を続ける都市づくり-** ○工業、商業、農業といった産業振興、特に市の財政力強化、雇用の場確保に直結する工業機能の強化・充実が重要 ○高速交通ネットワークの整備や大街区型物流団地の整備等により、物流の効率化及び機能強化・生産性向上を進め、地域の産業競争力の強化を図ることが重要	⑥中心市街地の衰退 ―社会保障費の増大等により一層厳しさを増す行財政運営
スーパー・メガリージョンと新たなリンクの形成 リニア中央新幹線が三大都市圏を結ぶスーパー・メガリージョンの構築と新たな価値の創出 日本海・太平洋２面活用型国土と圏域間対流の促進 諸機能が集中している太平洋側だけでなく日本海側も重視し、双方の連携を強化 国の光を観せる観光立国の実現 各地域が自らの宝を探し、誇りと愛着を持ち、活力に満ちた地域社会の実現 田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出 ＵＩＪターン、元気なうちの田舎暮らし、二地域生活・就労等の促進	魅力あるまちづくりの推進 ・観光による地域活性化に資する美しく魅力あるまちづくり	**5．地域資源を活かした交流の促進・拡大** **-観光交流・市民交流を促す都市づくり-** ○伝統的な祭りや民俗芸能、歴史的建造物や街並み、モノづくりの原点となる伝統工芸や産業遺構など、それぞれの地域が独自の個性や魅力を磨き、多様性を深化させることが重要 ○多彩な交流を支える公共交通による交流ネットワークの構築や飲食、宿泊等の都市機能の立地誘導を図ることが重要	―外国人来訪者の急増 ―リニア中央新幹線の開業による大交流圏の誕生

（つづき）

国土のグランドデザイン 2050 国土を巡る大きな状況の変化や危機感を共有しつつ 2050 年を見据えた国土づくりの理念や考え方 基本戦略（順不同）	都市再生基本方針 我が国の活力の源泉である都市について、都市再生の取組みの共通指針となるもの 施策の基本的方針（順不同）	時代潮流からみた 都市づくりの方向性	現行計画 経済社会情勢の変化＝時代潮流 対応関係の整理
子供から高齢者まで生き生きと暮らせるコミュニティの再構築 あらゆる世代が地域と積極的に関わり、生き生きと暮らせる社会の実現	質の高い生活を確保するための諸機能の整備 ・生活を支える諸機能の適切な配置 ・より高い水準のユニバーサルデザイン化 医療・福祉サービスの的確な提供等 ・健康増進のための活動に取り組みやすい環境の整備 ・医療・介護コストの低減につながるまちづくりの推進 急激に高齢化が進展するニュータウン等の再生 ・大規模ニュータウン等でのコミュニティの再構築	**6．子育て環境の充実、健康寿命の延伸** -誰もが生き生きと暮らせる都市づくり- ○誰もが安心して子どもを産み育てることができ、高齢者が暮らしやすい環境を形成するとともに、女性や高齢者の社会参画を容易にすることが重要 ○超高齢社会では、医療福祉施策の充実だけでなく、市民誰もが社会参加（外出）できる場を持つことで、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを進めていくことが重要 ○若年層の定住促進など世代間バランスのとれた定住を進め、コミュニティの維持・活性化を図っていくことが重要	②人口・世帯構造の変化と少子高齢化の進展
美しく、災害に強い国土 美しい国土を守り、国土全体を最大限有効活用するとともに、災害に強い国土づくり	災害に強いまちづくりの推進 大規模災害が発生した場合における被害の最小化 子どもを生み育てやすい環境の整備 ・誰もが安心して子どもを生み育てられ、子育てしながら働くことのできる環境の整備 犯罪等の起きにくいまちづくりの推進 ・犯罪の起きにくいまちづくりの推進 ・安全・安心な歩行空間の創出等	**7．自然災害等に備えた安全安心の確保** -安全・安心の都市づくり- ○狭あい道路の改善をはじめ災害に強い都市構造の形成や市街地の再整備よる防災性の向上を図るとともに、今後増加が懸念され、災害時の被害を助長することにもなり兼ねない空き家等への対策を地域住民とともに考えていくことが重要	③安全・安心への意識の高まり
	魅力あるまちづくりの推進 ・都市に継承された文化・歴史をいかした良好な都市景観の形成 ・貴重な緑地の保全及び緑化等の推進	**8．魅力ある都市景観の形成** -都市の個性を発揮する景観まちづくり- ○地域独自の歴史・文化等に根差した個性的な景観や潤いと安らぎを与える自然等の幅広い地域資源を最大限活用し、住民が誇りと愛着を感じられる景観づくりが重要 ○人口減少により発生する空き地等を公園や緑地として積極的に活用していくとともに、無電柱化など美しい道路景観づくりの推進など景観の改善を進めることが重要	⑧美しい都市づくりへのニーズの拡大
戦略的サブシステムの構築も含めたエネルギー制約・環境問題への対応 エネルギー制約・環境問題への対応のため、新たなエネルギーの活用や省エネの推進	環境負荷の低減と自然との共生 コンパクトな都市構造への転換、都市から発生する環境負荷の低減及び自然との共生の推進	**9．地球温暖化対策への貢献** -環境負荷の小さい都市づくり- ○まとまりある森林や農地等において無秩序な開発を抑制するとともに、市街地では、防災空間やオープンスペースの確保、都市農業の多様な機能の発揮等により、良好な都市環境の形成を図ることが重要 ○自動車に過度に頼らない集約型都市構造への転換、建築物の低炭素化や緑地の保全・緑化の推進などを総合的に進めることが重要	①　地球規模の環境問題の深刻化

※資料：「国土のグランドデザイン 2050」（平成 26 年 7 月国土交通省）

「都市再生基本方針」（平成 14 年 7 月閣議決定、平成 28 年 8 月一部変更）

（３）今後重視すべき都市づくりの方向性　“地域性”と“安城市の方向性”から“都市づくりの視点”を整理する

「国土のグランドデザイン 2050」、「都市再生基本方針」などの時代潮流からみた“これから”の都市づくりの方向性を踏まえつつ、西三河都市計画区域マスタープランに即すため「愛知の都市づくりビジョン」による“地域性”との整合を確認しつつ、本市の最上位計画である第８次安城市総合計画における「幸せつながる健幸都市　安城」の目標実現のために整理する「“豊かさ”とともに“幸せ”を実感できる５つの要素（５K）と“目標とするまちの姿”」を踏まえ、都市づくりの方向性を横串し的に整理しました。（**図－１**）

ここで、時代潮流・地域性からみた安城市における“これから”の都市づくりの方向性について、よりわかりやすく整理するため、今後重視すべき都市づくりの視点（＝課題整理の視点）を整理しました。「まちをつくる」視点である都市構造、「まちをみんなでつくる」視点である都市運営、「まちの賑わいをつくる」視点である都市活力、「まちで安心をつくる」視点である都市生活、「まちの心地よさをつくる」視点である都市環境の５つの視点に大別できます。この都市づくりにおける５つの視点、仮に第 8 次安城市総合計画の「5K」にならい、都市計画マスタープランでは「5T（都市、つくる、創る）」として、「（１）都市計画をとりまく実態調査」で整理した都市計画の基本的課題を視点毎に整理し、とりまとめることとします。

図　時代潮流・地域性からみた、安城市における“これから”の都市づくりの方向性、今後重視すべき“都市づくりの視点”

全国の社会背景 → 愛知県の社会背景 → 安城市の方向性

時代潮流・地域性からみた”これから”の都市づくりの方向性

時代潮流からみた”これから”の都市づくりの方向性	地域からみた“これから”の都市づくりの方向性 愛知の都市づくりビジョン-都市づくりの基本方向-
1．集約型都市構造への転換 -機能集積の高い都市づくり-	**①暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換** ・歩いて暮らせる生活圏の形成や効率的な都市経営等に向けた集約型都市構造への転換 ・多核連携型のネットワークの形成・充実 ・既存ストックの活用など効率的な都市経営
2．既存社会資本ストックの最大活用と適正管理-都市運営コスト削減の都市づくり-	
3．公民連携、民間活力の活用-市民参加の都市づくり-	
4．産業競争力の強化、産業立地等民間投資の誘発-力強く発展を続ける都市づくり-	**③力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進** ・力強い愛知を支える産業集積を推進 ・広域幹線道路ネットワーク等による経済活動の効率性の向上や生産力の拡大
5．地域資源を活かした交流の促進・拡大-観光交流・市民交流を促す都市づくり-	**②リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進** ・様々な対流の促進によって都市の活力を高め、にぎわいを創出 ・魅力ある都市空間、景観づくり等によるにぎわいの再生
6．子育て環境の充実、健康寿命の延伸-誰もが生き生きと暮らせる都市づくり-	**①暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換** ・散在する集落地等での生活利便性やコミュニティの維持 ・子どもを安心して産み育てることのできる社会の実現に向けた福祉施策との連携・調整
7．自然災害等に備えた安全安心の確保-安全・安心の都市づくり-	**④大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保** ・大規模自然災害等の発生に備えた安全安心な暮らしの場の確保 ・誰もが安全安心に移動できる都市空間の形成
8．魅力ある都市景観の形成-都市の個性を発揮する景観まちづくり-	**②リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進** ・魅力ある都市空間、景観づくり等によるにぎわいの再生
9．地球温暖化対策への貢献-環境負荷の小さい都市づくり-	**⑤自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進** ・まとまりある森林、農地の保全 ・建築物の低炭素化や緑地の保全・緑化の推進などを総合的に実施

安城市における“これから”の都市づくりの方向性
第８次安城市総合計画-幸せつながる健幸都市　安城-

5 Kとの関連 健康	環境	経済	きずな	こども	関連する項目と主な施策 （◎分野に関連する項目・施策を表記）
○	◎	○	○	◎	●都市拠点、広域拠点、地域拠点の整備促進 ●公共交通網の充実 ●幼稚園・保育園の充実
△	◎	○	△	△	●市営住宅の更新、空家等対策の実施 ●効率的な行財政運営、公有財産の適正な管理運用
○	△	◎	◎	△	●市民参加及び協働のまちづくりの推進、地域活動の支援 ●多様な主体との連携・協働(新しい公共のまちづくり)
△	◎	◎	△	△	●ものづくり産業の振興 ●基盤整備の実施及び地域活動による農地などの持つ多面的機能の維持
△	△	◎	◎	○	●観光資源の活用 ●リニア中央新幹線開業に向けた交通環境の充実 ●人がふれあうまちの形成
◎	△	△	◎	◎	●健康づくり機会の充実、健康を考える生活 ●高齢者の生きがいと地域支援 ●子育て世代の地域生活支援
○	△	○	◎	◎	●安全、安心、快適な道路交通環境の実現 ●災害時の対応・連携強化 ●防災・減災対策の普及促進
△	◎	△	◎	○	●自然と共生する良好な生活環境の確保 ●人がふれあうまちの形成
○	◎	○	○	△	●低炭素社会の実現 ●自然と共生する良好な生活環境の確保 ●公共交通網の充実

今後重視すべき都市づくりの視点

- 視点１　都市構造（まちをつくる）
- 視点２　都市運営（みんなでつくる）
- 視点３　都市活力（賑わいをつくる）
- 視点４　都市生活（安心をつくる）
- 視点５　都市環境（心地よさをつくる）

（４）都市づくりの基本的課題　安城市の“強み”と“弱み”を知る

「今後重視すべき都市づくりの視点」においてこれからの安城市の都市づくりにおいて重視すべき視点を「SWOT 分析」における外的要因（機会(O)、脅威(T)）とし、実態調査結果より明らかとなった内的要因（安城市の強み(Ｓ)、弱み(W)）を知り、今後の都市づくり上の基本的課題を整理します。

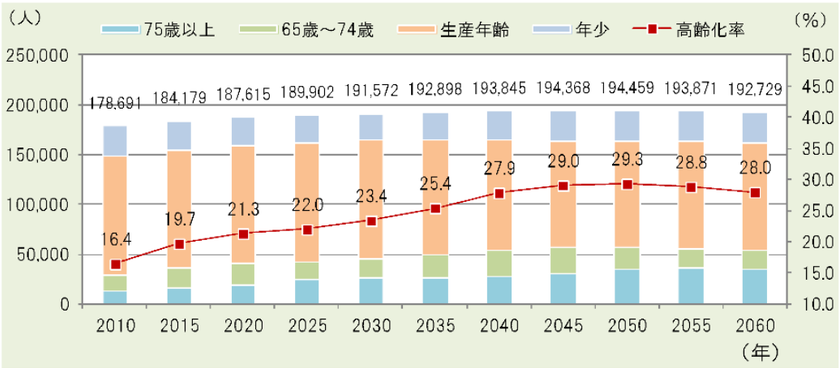
視点１　都市構造

まちをつくる

◎安城市の強み

①人口・世帯数は増加で推移、今後も緩やかな増加が継続する見込み

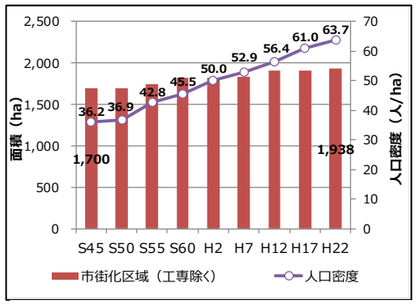
②市街化区域への人口集積が進むとともに、人口密度が高い市街地が主要な駅周辺等（JR安城駅、JR三河安城駅、名鉄新安城駅、名鉄桜井駅）に分布



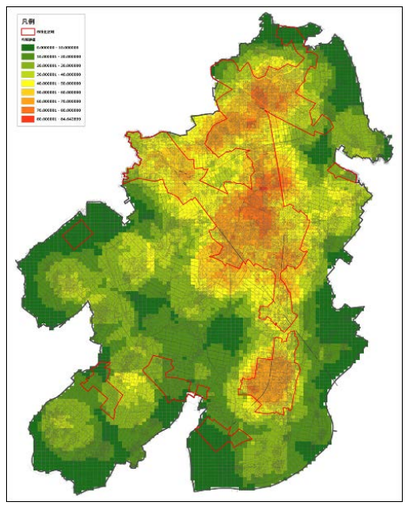
図①　本市の目標人口（安城市　まち・ひと・しごと創生総合戦略）

③高齢者数の増加に伴い高齢化率が上昇しているものの、生活利便施設が歩いて暮らせる生活エリアに立地

④JR東海道新幹線、JR東海道本線、名鉄名古屋本線、名鉄西尾線の4路線により鉄道網が形成（鉄道を軸とした都市構造）



図②　市街化区域面積と人口密度の推移
（都市計画基礎調査）



図③　生活利便施設集積点マップ
（都市機能増進施設の集積現況評価）

⑤市内を循環する「あんくるバス」が11路線で運行され、利用者数は年々増加

⑥教育施設の徒歩圏域が市全域を概ねカバーしており、子育てしやすい環境を形成

⑦年少人口はこれまで横ばいに推移しており、人口ビジョンでは今後も概ね横ばいで推移

⑧レンタサイクルを11ポート設置し、運用

⑨明治用水緑道を活用した自転車ネットワークの整備が進行

●安城市の弱み

①準工業地域では住宅地及び商業地の土地利用が増進し、住商工が混在

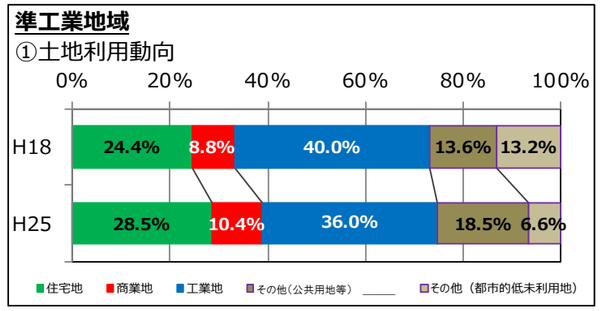
②商業系用途地域における実際の容積率は主要駅周辺で高いものの、容積充足率はほとんどの地区が５割以下

③用途地域と土地利用構想の不整合が全体の約１割であり、住居系土地利用構想がその多くを占める

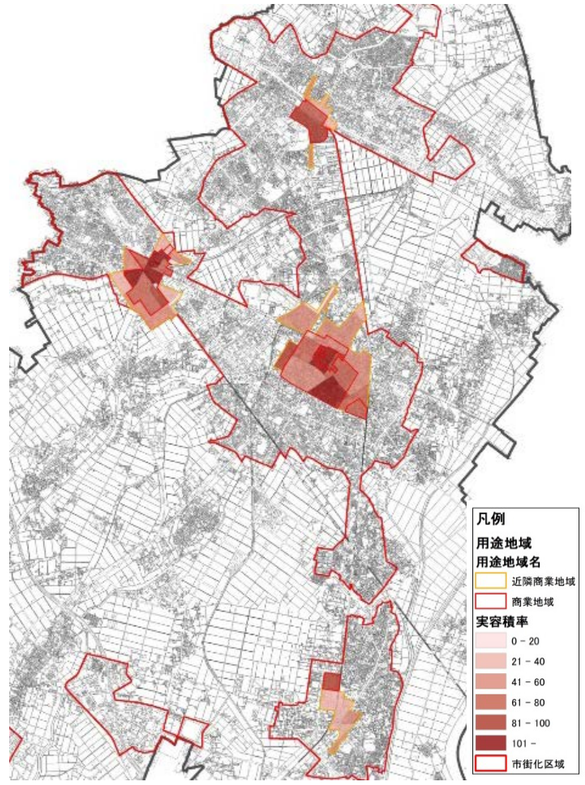
④都市的低未利用地のうち、約７割が住居系用途地域内に存在

⑤市街化調整区域における開発許可件数及び面積は年々増加する傾向があり、既存集落周辺でのスプロール化が進行

⑥大規模既存集落外縁部で人口・世帯数が増加する一方で、大規模既存集落内で人口・世帯数が減少し、高齢化が進行



図①　準工業地域の土地利用動向
（都市計画基礎調査）



図②　商業系用途地域における実容積率
（都市計画基礎調査）

「まちをつくる　都市構造」分野における基本的課題…市街地規模の適正化、機能の適正配置、公共交通体系の充実　等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

・将来の人口減少社会を見据えつつ増加する人口を受け止める新たな住居系市街地の形成及び市街地内の主要駅周辺における人口集積の強化

・市街地人口密度の維持・上昇による市街地内に広く立地する生活利便機能の維持・充実

・利用者が増加する公共交通網の維持・サービス水準の強化

・歩いて暮らしやすいまちづくりに向けた歩行者・自転車ネットワークの拡大・機能充実

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

・ＪＲ安城駅周辺をはじめとする４つの拠点（商業系用途地域）での機能集積の強化

・高齢者や子育て世代をはじめ誰もが便利に日常的サービスを享受できる生活圏の再構築

・現況土地利用と用途地域と土地利用構想の不整合の解消

・市街化調整区域における無秩序な開発、都市機能立地の抑制

・大規模既存集落における集落環境の改善

視点２　都市運営

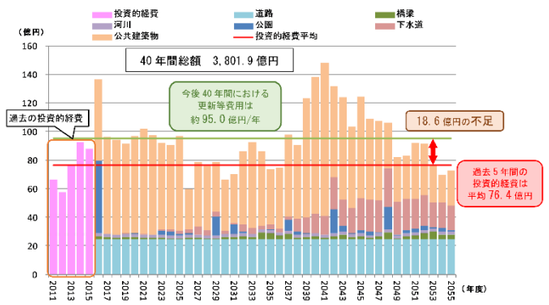
みんなでつくる

◎安城市の強み

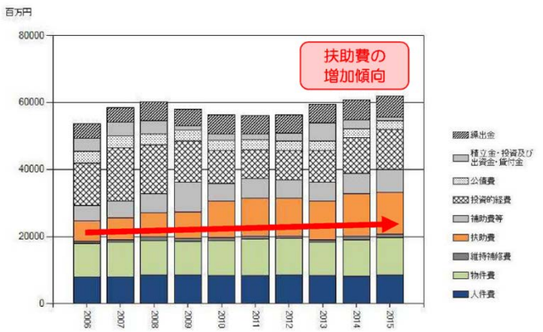
①財政力指数が１以上、かつ経常収支比率は 75%前後で推移しており、健全な財政を維持
②都市計画道路は概成済を含めた整備率が約８割（行政区域）
③都市公園は全国や県平均と比較して整備水準は低いものの、第二次都市マス改定から時から整備が進行
④南明治地区では、土地区画整理事業の円滑な実施に向けた啓発や街づくり活動を実施
⑤桜井駅周辺地区では、まちづくり憲章やまちなみ景観ルールを定め、住みよいまちづくりを住民が主体となって実施

●安城市の弱み

①公共施設の維持更新費等は、今後増加することが予測
②今後の高齢化の進展に伴う扶助費等の増加及び生産年齢人口の減少に伴う歳入の減少が予測され、今後増加する施設老朽化対策や維持、更新費用に十分な費用がかけられなくなることが予測



図①　公共施設等（普通会計ベース）の更新等費用の試算
（安城市公共施設等総合管理計画より）



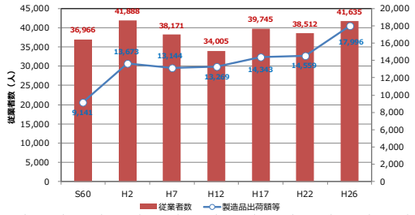
図②　歳出決算額の推移
（安城市公共施設等総合管理計画より）

視点３　都市活力

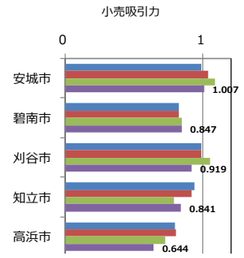
賑わいをつくる

◎安城市の強み

①製造品出荷額等は増加傾向にあり、製造業が盛んとなっている
②小売業の事業所数、販売額、従業者数、売り場面積ともに周辺都市と比較して最も高く、自市内だけでなく他都市からも買い物客が流入
③桜井駅周辺地区では、まちづくり憲章やまちなみ景観ルールを定め、住みよいまちづくりを住民が主体となって実施
④名古屋から新幹線により10分で到達可能（東京からも60分アクセス圏）
⑤観光入込客数は、安城七夕祭りで100万人/年以上、デンパーク及び堀内公園がそれぞれ約50万人/年



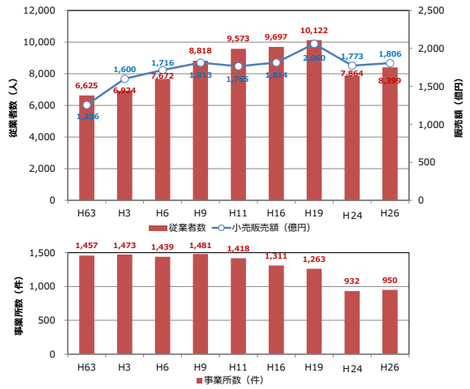
図①　製造業に係る従業者数、製造品出荷額等、事業所数推移（工業統計より）



図②　小売吸引力
（商業統計）

●安城市の弱み

①小売業の従業者数が概ね維持される一方、事業所数は減少していることから小売店舗の大型化進み、身近な中小規模の小売店舗が減少
②市全体での観光入込客数は、周辺都市と同水準
③国道 23 号及び県道 47 号では渋滞が発生しており、将来に渡っても交通混雑が予想
④需要に対応できていない広域的道路網
⑤市街地の外郭を形成する多車線道路ネットワークが未形成
⑥近年大規模既存集落外縁部における開発の進行により、集落コミュニティが損なわれ、集落の賑わいが低下



図①　小売業に係る従業者数、小売販売額、事業所数推移（工業統計より）

「まちをみんなでつくる　都市運営」分野における基本的課題…社会資本ストックの長寿命化、担い手づくり　等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

・安城市ならでの、現在の豊かな財政力を活かした個性あるまちづくり
・安城市民ならではの、これまでの住民主体のまちづくり実績を活かした基盤施設や公共建築物等の維持管理に対する住民や民間事業者との協働化の促進

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

・将来の人口減少や社会資本ストックの長期的な維持管理コスト等を見据えた住居系市街地規模の適正化
・老朽化するインフラ施設に対する効率的な修繕・更新等の実施、長寿命化による更新コストの削減
・必要な公共サービスの維持と施設量の適正化の両立

「まちで賑わいをつくる　都市活力」分野における基本的課題…産業振興、広域交流、都市景観　等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

・リニアインパクト（ＪＲ三河安城駅の位置づけの変化等）を活かした交流人口の拡大
・日本有数のものづくりポテンシャルや広域的な交通利便性を活かした工業・物流機能の集積強化
・賑わいを集める、地域固有の自然、歴史文化資源や田園景観等の資産活用、回遊性の強化
・賑わいを集める、街並み景観づくりの活動を市全域へと波及

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

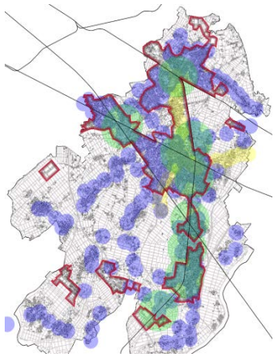
・商業業務機能やサービス業をはじめとする第３次産業の集積強化（多様な産業構造への転換促進）
・産業を活性化する、物流等産業活動の円滑化に資する広域的道路網、及び多車線道路ネットワークの形成
・集落を活性化する、大規模既存集落外縁部におけるスプロール化抑制による集落コミュニティの再形成

視点４　都市生活

安心をつくる

◎安城市の強み

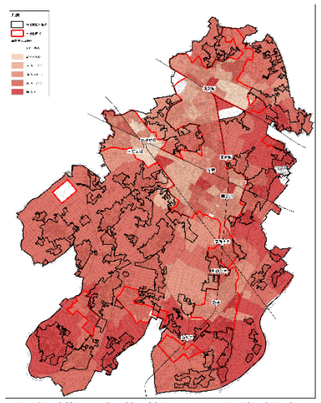
①市街化調整区域においても大規模既存集落を中心に公共交通の利用圏域にカバーされており、市街化区域へアクセスすることが可能な状況
②一部地区において、まちづくり憲章及びまちづくり指導要綱を定めているほか、事前復興まちづくりを実施
③近年、自動車産業を中心とした工場立地や住宅開発などにより、農・工・商のバランスがとれた複合都市として発展



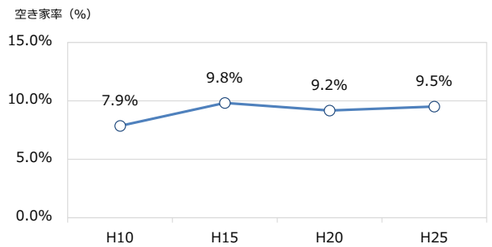
図①　生活利便性評価マップ
【公共交通近接性】

●安城市の弱み

①市街化調整区域の集落地の一部で人口・世帯数が減少、高齢化が進行
②市街地内には狭あい道路等が残る未整備市街地が存在
③南海トラフ地震による人的被害や建物被害等が予測
④洪水による浸水が市北部や市南部・市南東部等を中心に想定
⑤駅周辺の市街地に老朽建物が多く分布する傾向
⑥都市的低未利用地のうち、約７割が住居系用途地域内に存在
⑦市全域で空き家が増加傾向



図①　大規模既存集落における高齢者の割合（H27 国勢調査）



図⑦　空き家率の推移（住宅・土地統計調査）

視点５　都市環境

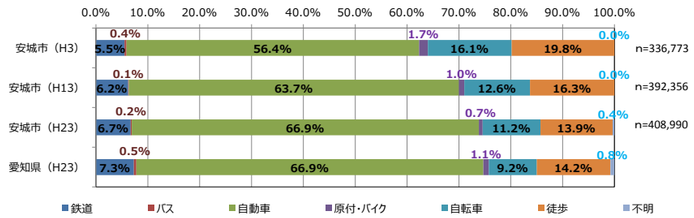
心地よさをつくる

◎安城市の強み

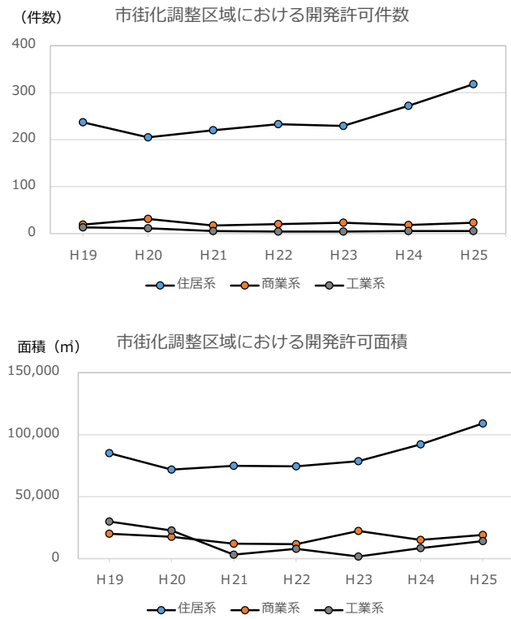
①市街化調整区域に一団のまとまりある優良農地が広がる
②市内を循環する「あんくるバス」が11路線で運行され、利用者数は年々増加
③レンタサイクルを11ポート設置し、運用
④明治用水緑道を活用した自転車ネットワークの整備が進行

●安城市の弱み

①市街化調整区域における開発許可件数及び面積は年々増加する傾向
②代表交通手段構成は継続して自動車が増加し、自転車・徒歩が減少
③都市公園の一人当たり整備水準（4.72 ㎡/人）は、全国平均（9.4 ㎡/人）及び県平均（7.02 ㎡/人）と比較して低い



図②　代表交通手段構成（PT 調査）



図①　市街化調整区域における開発許可（都市計画基礎調査）

「まちで安心をつくる　都市生活」分野における基本的課題…コミュニティ・多世代交流、防災　等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

・もしもの時に支えになる、地域防災力を強める住民主体の地域活動など、地域防災力の下支えとなるコミュニティの再生・活性化
・普段の暮らしの支えになる、バランスよく立地した都市機能・生活機能の維持、充実

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

・まちの安心を高める、未整備市街地や狭あい道路等の解消・改善による市街地の防災性強化
・暮らしで安心できる、高齢化の進む既成市街地や集落地等での就労世代の定住促進と地域コミュニティの再生・活性化
・将来の安心を確保する、災害危険性の高い区域での無秩序な開発の抑制
・防犯、防災への安心を確保する、多様な世代の人口定着につながる空き地や空き家の有効活用

「まちの心地よさをつくる　都市環境」分野における基本的課題…環境負荷の低減、自然環境保全　等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

・心地よく利用できる、公共交通網の維持・サービス水準の強化（再掲）
・自身の健康を心地よく感じる、歩いて暮らしやすいまちづくりに向けた歩行者・自転車ネットワークの拡大・機能充実
・やすらぎを感じる、身近な公園・緑地の維持・保全、緑化の促進、市街地内農地の維持・活用
・やすらぎを感じる、良好な農村環境の維持・保全

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

・これからもやすらぎを感じることができるよう、まとまりある良好な農地・緑地の保全
・心地よい環境をもたらす、自動車中心の交通移動手段の転換促進

（５）強みと弱みから導く、「今後重視すべき都市づくりの視点」からみた都市づくりのキーワードと目標骨子（全体構想立案に向けた例示）

「（３）「今後重視すべき都市づくりの視点」別に整理した、都市づくりの基本的課題」において、５つに大別した都市づくりの視点毎に安城市の「強みを伸ばす考え方」、「弱みを克服する考え方」を整理いたしました。その中で、強みと弱みから導く都市づくりのキーワードを抽出し、全体構想に向けた目標骨子を整理しました。なお、本抽出・整理は全体構想立案に向けた例示であり、本方向性をもとに、今後全体構想の目標骨子を作成いたします。

視点１　**「まちをつくる　都市構造」**では、“市街地規模の適正化”、“機能の適正配置”、“公共交通体系の充実”などをキーワードとする**「都市機能が便利に使える集約型都市づくり」**

視点２　**「まちをみんなでつくる　都市運営」**では、“社会資本ストックの長寿命化”、“担い手づくり”などをキーワードとする**「市民とともにはぐくむ持続可能な都市づくり」**

視点３　**「まちの賑わいをつくる　都市活力」**では、“産業振興”、“広域交流”、“都市景観”などをキーワードとする**「活力と活気あふれる都市づくり」**

視点４　**「まちで安心をつくる　都市生活」**では、“コミュニティ・多世代交流”、“防災などをキーワードとする**「安全・安心に暮らせる都市づくり」**

視点５　**「まちの心地よさをつくる　都市環境」**では、“環境負荷の低減”、“自然環境保全”などをキーワードとする**「環境首都安城を支える都市づくり」**

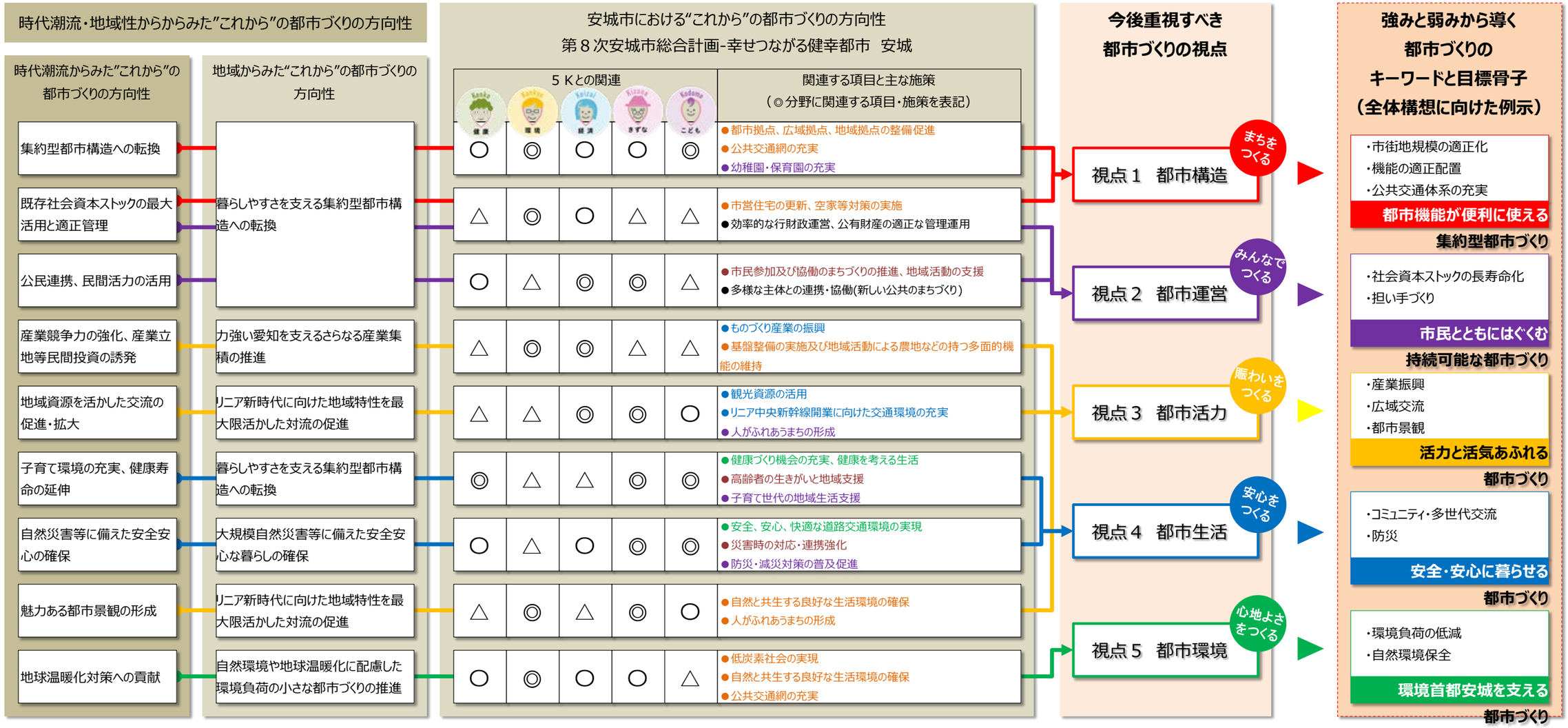



図　今後重視すべき都市づくりの視点（いわゆる５Ｔ）毎に整理した、安城市の強みと弱みから導く都市づくりのキーワードと目標骨子（全体構想に向けた例示）